

# 希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 27 年 4 月 23 日発行

第 4 号

発行人 校長 鈴木史良

## 世界的教育実践家の故郷

—— チューリッヒが生んだ教育家ペスタロッチを知る ——

スイスに赴任してはじめて知ったことは数多くあります。日本から到着した翌々日、ゼクセロイテン・キンダーパレードの下見へ行くために初乗車したSBBの乗り心地のよさや絵葉書のような田園風景、フラウ・ミュンスターにあるシャガールの描いたステンドグラスの美しさなどなど。ゼクセロイテン祭もたいへん興味深いものでしたが、中でもチューリッヒ市がペスタロッチの生誕地であることを知った時は驚きました。

チューリッヒ市内に銅像があることを知り、場所を教えてくださいました。当日はチューリッヒ・マラソンが開催され、マラソン選手に声援を送りながらの見学となりました。バーンホフ通りを中央駅に向かって歩いていくと、緑の芝生広場が見えてきました。その中央部に大きなデパートの建物を背にしたペスタロッチ像が一人の子どもを抱えるように立っていたのです。

ペスタロッチは1746年1月12日にチューリッヒで生まれ、父は外科医でしたが、ペスタロッチが幼い時に亡くなり、母親とお手伝いさんの献身によって育てられました。少年時代のペスタロッチはチューリッヒ近郊のヘンク村で牧師をしている祖父のところへよく遊びに行っていたそうです。その時、チューリッヒの町の子どもたちとヘンク村の子どもたちの大きな差に気づきました。町の子どもたちは裕福でみな学校に行って勉強しているのに、村の子どもたちは貧しく、十分な学校教育を受けられないまま働いていたという現実を目にしたのです。

ペスタロッチは幼心に、貧しい子どもたちにも教育を受けさせたいと考えました。この考えはペスタロッチの生涯を通じて貫かれました。さまざまな困難に遭遇しながらも粘り強く克服し、信念にもとづいた教育を実践しました。片田舎で孤児や貧民の子などの教育に従事し、教育には家庭の温かさが必要なこと、感覚器官を通じて知識を習得させていくこと、パンを与えるよりもパンを得るために必要な知識や技能を子どもたちに教えていくこと、などなど幾多の優れた教育を実践し、その後の世界の教育に大きな影響を与えました。

チューリッヒはこのような人物をはぐくみ育てた環境です。わたしたちもこのさわやかな空気を胸いっぱい吸い込み、これからも精一杯学んでいきましょう。



ペスタロッチ像(バーンホフ通り)

## お別れするともだちからのことば・・・

4月24日(金)は、小学部2年生のAさんと5年生のBさんのお別れ会があります。スイスでの生活を通して、さまざまな体験をしたことと思います。その体験

は学びとなり、貴重な財産になったことでしょう。日本の友達にぜひ伝えてほしいと思います。2人が書いたお別れの言葉を紹介します。

わたしがいちばんおもいでにのこっていることは、スキーキャンプです。チェアリフトにはじめてのったときは、こわかったです。スキーですべったときは、うまくすべることができたので、たのしかったです。日本にかえってもスキーをしたいです。みんな、はなれてもいっしょだよ！

わたしのチューリッヒ日本人学校での思い出は学習発表会です。理由はみんなで楽しくげきをしたり歌をうたったりしたからです。みんなでふりつけを考え、教えあったことがいちばん印象に残っています。日本に帰ったら友達と再会するのが楽しみです。わたしからの一言「みんなでまた会いたい！ 日本のどこかで集合！ これからもがんばれ！」

## 詩を楽しむ

ねむりのくに

阪田 寛夫

こどもたちが  
かえったあと

ひいおじいちゃんひとり  
ピアノの前で

昔のことを考える

ひいおじいちゃんは

ことし八十一

でも三で割ると二十七

九で割ると九つ

二十七で割ると三つ

ひいおじいちゃんのなかに

若者がいる

少年がいる

おさなごもいる



「人生八十年を一日に換算すると、きみたちはまだ夜明け前。これから人生の幕開けだね。」中学三年生の担任が多かつた私は、生徒たちにこんな話をした。

午前零時にオギャーと産声を上げると、十歳になるのが午前三時。まだまだ暗闇の世界だ。十五歳が午前四時半。まだ薄暗いながらも東の空に朝のエネルギーが感じられる頃だ。午前六時に二十歳を迎える。すっかり明るくなって、世の中の様子がよく見えてくる。

午前十時半は三十五歳、会社でばりばり働いている時刻だ。正午が四十歳、不惑の年。一息入れた後、ここから人生の後半が始まる。午後六時は六十歳。会社の一日の仕事を終え、帰宅する時刻、人生においても定年退職を迎える。あとは家でゆっくり身体を休めたり、余暇を楽しんだりして一日の疲れをとったりする。午後九時、七十歳。夜が更け、しずかなひとときを過ごし、午後十二時には静かな眠りにつく……。だとすれば中学生はまだまだ世の中が見えていない。だからこそ一生懸命勉強することが必要なのだというおちがつく。